

☆ 始めに

大阪府 <廣瀬 園子>

約20年前に大阪府の連盟グループでSan Diegoへ国際大会のための誘致活動旅行をしました。その時の名刺交換をたどって3年前にMr.Glenn Elginから手紙が届いたのが事の始まりでした。3日?に挙げず届けられる便りには、日本の選手の大会への参加を熱望する気持ちが溢れていました。人情の大阪としては振り切ることはできません。計画を立てましたが、メインの役員選手が全員肩の故障でアウト。次の年に日本レディースバドミントン連盟を通して国際大会時にアピールを開始し、今回実現の運びとなりました。この状況のもと、日本全国からの嬉しく温かいご協力とご参加を本当にありがとうございました。

成果はてんこ盛りでした。永年の友情を温められたこと。新しい出会いを得られたこと。日本女性選手の存在をアピールできたこと。何よりうれしかったのは、大阪で開催している国際大会へ、今回参加の皆様から応援の気持ちをいただいたことでした。



Dear Kiku,
So wonderful to meet you!
I miss everyone, so much!
Please, tell every person, they are dear to my heart!
I care so much for everyone!
Best Wishes,
Glenn



☆ 旅の思い出

福岡県 <鐘江 敏子>

思いがけないお誘いで海外での大会に参加することになり、楽しみと不安の気持ち半々に成田に集合。関東、関西、福岡総勢20名が顔を合わせた時には見知った顔もあり不安は消えていました。十数時間のフライトも遠足気分であつという間にサンディエゴに到着。そのままバスで市内観光。二日目、ここまで来たらメキシコまで行かない手はないと初の徒歩での国境越え。

次の日からいよいよ大会。Aクラスのレベルの高さに驚いたり、体育館内土足OKに驚いたり、それでも皆さんフレンドリーで、緊張することなく試合に臨めました。最後は銀メダルというご褒美付きで、文句なしの楽しい一週間でした。

また、現地でサポートしていただいたミスターグレン、そして大阪府レディースバドミントン連盟の方々への行き届いたお世話に感謝、感激の一週間でした。

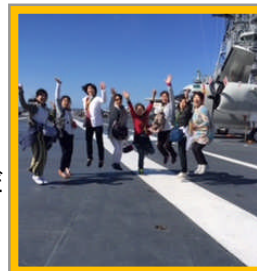


東京都 <小庭 洋子>

今回、大阪府レディース連盟より表記大会のお誘いを頂き東京より4ペア8名で「60th Dave Freeman Open」ツアーに参加させて頂きました。当初は大会の規模や参加者のレベルが分からなかった為、申し込んだランクには不安もありました。実際に現地に行くと大会が始まると、Aランクには元ワールドチャンピオンの参加もあり大変High Levelな大会で、試合を観戦するだけでも楽しむことが出来ました。また、東京チームは大会参加だけでなく、観光・買い物と、サンディエゴの青空のもと充実した時間を満喫させて頂きました。サンディエゴからトロリーで向かったアウトレットはメキシコとの国境の近くにあり、国境の壁の為に主柱を見ることが出来ました。また、その手前に、電流の通っているネットが張り巡らされていると言う話には、米国の現状を目の当たりにした様で、感慨深いものがありました。

一方大阪府レディース国際部の皆様は、ヨネックス国際親善大会の招致活動で毎日現地スタッフとの会食や参加者との交流で会場に缶詰め状態で精力的に活動をされていました。この地道な活動がヨネックス国際親善を支えているのだと、痛感しました。その他にも、ツアー参加者のケア(日々変わるタイムテーブルの連絡・会場までの車の手配等々)に尽力していただき、細部までの心遣いに感謝しています。

今回の私共の参加が、少しでもヨネックス国際親善大会の招致のお役に立てたら幸いに思います。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



茨城県

＜羽生 美恵＞



初めて訪れたSan Diegoは、日中は温暖ですが、朝、晩は肌寒い、それでもとても海が美しい海軍の街でした。ツアーはとても時間に余裕のあるもので、到着日は市内観光と、夜はホテルのレストランでウェルカムパーティと移動も小さく、体に良かったです。

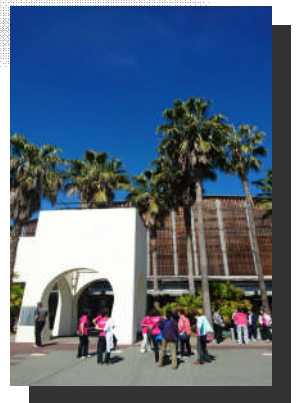
二日目にはツアーに参加、メキシコ・ティファナへ行き、買い物や食べ歩きを堪能しました。三日目から大会ですが、私とパートナーの谷藤さんは試合がなかったで、午前中は博物館めぐり、国境近くのアウトレットまで買い物をしに公共機関で往復しました。四日目の土曜日から試合があり、Aゾーンでは一回戦負けでしたが、Bゾーンでは何とか優勝することができました。パートナーには試合、プライベート共に助けて頂き有意義な大会、旅行となりました。特に大阪の山内さんにはツアー全般、通訳と助けてもらいました。

今回出会った皆さんには応援して頂き、とても親切にして頂き、感謝しております、ありがとうございました。

千葉県教職員連盟 <谷藤 千香>

海外遠征好きな私には最高の機会でした！どんな大会なのかかわからないまま、きっと国内の大会にはない新たな出会いがあると思い、参加させて頂きました。期待通り、わくわく、ドキドキ、あっという間の1週間でした。私にとって、海外遠征の楽しさは自分という枠組みから少しでも飛び出すこと。今回は、日本選手団として厚いおもてなしを受け、ジュニアから生涯スポーツ満喫中の私達までもがともにプレイできる環境の中で、日本とはちょっと違った工夫を凝らした大会に参加する中で沢山の勉強をさせて頂きました。また、ここで出逢った方々とは実は以前別の機会にお会いしていたり、共通の知人がいたり、バドミントンの繋がり大きさ、強さにも感激しました。

気軽な気持ちで参加した大会でしたが、実は、アメリカ人唯一の全英選手権男子シングルス優勝者で、殿堂入りしている Dave Freeman を冠した大会。彼の顔写真付きのメダルを見ながら、私も将来地元で大会でトロフィーのプレゼンテーションができるといいなと密かに思っています。貴重な経験をさせて頂き、本当に有難うございました。



☆ 日本レディースバドミントン連盟への報告書

大阪府

<山内 菊子>

Dave Freeman Open Badminton Tournament 2017 in San Diego 参加報告

大会名 第60回Dave Freeman Open Badminton Tournament 2017

期日 2017年2月24日～26日

会場 Balboa Park Activity Center, San Diego, CA. U.S.A

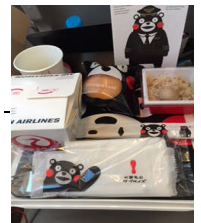
(SDBC)の重鎮Mr. Glenn Elgin 氏からの熱い要望があり、日本から選手を集めて参加することとなった。日本選手団は東京・千葉・茨城・福岡・大阪から計20名により編成した。Aゾーンから合算120歳の部門に参戦。Bゾーン、合算80-100、110の3種目で優勝した。Bゾーンではトロフィーに加えて賞金も獲得、その他でも銀・銅のメダルを持ち帰ることができた。

大会運営について驚いたのは、プログラムがなくオンラインで自分の試合を確認しなければならないこと。さらにその試合が前日の夜11時なっても更新されず、翌日の予定把握に振り回された。要項には朝9時から夜11時まで試合が行われることになっており、担当スタッフのハードな業務が思いやられた。

大会は、アメリカのオリンピックポイントに関係するため代表を目指す若い選手がたくさん参加していた。参加者の年齢は多岐にわたり、自分もまさか11才の選手と対戦するとは思わなかった。

会場には過去国際親善大会に参加いただいたOCBCの元マネージャー・Timさんが応援にかけつけてくださり、またハワイの渡辺美智子さんにはSDBCだけでなく西海岸の主だったクラブの責任者を紹介していただいた。ちらしを配り、我々のトーナメントに興味のありそうな選手をみつけたら名刺を渡し挨拶するなど、積極的に誘致活動を展開した。

近い将来、我々の蒔いたトーナメントの種が花を咲かせる日が来ることを期待したい。



<編集>

大阪府レディースバドミントン連盟 土肥昌代